

「なんくるない」

よしもとばなな著

「なんくるない」、沖縄方言で「どつってことない」、「なんとかなるよ」という意味があるそうです。南の国の言葉は、なんとゆつたりと聞こえるんだろう。実際には、せっぱ詰まってどうにもなりそうにないと思っけていても、「なんくるないさー」と言われると、そうなのかしら・・・と思っけてしまいます。この本は、4つの短編で構成されていて、主人公たちは、それぞれ心に何らかの痛みや傷を持って、沖縄にやってきます。そして、この土地の風景や、ゆるやかに流れる時間、なによりあたたかい人たちと出会って、日々を過ごすうちに、心に刻み込まれたつらい思い出は、きれいに削りとられていきます。そうして、自分の足をちゃんと整備して、「生活の拠点となる場所」へ帰って日常を始めることができるようになります。

この「なんくるない」という言葉、実際に「なんとかした人」が使っから、説得力があるのでは？どう見ても「アカン。なんともならん」状況の人が、必死になってあがき続けた結果、なんとかできた。自分で今の状況を変えたくて、失敗しようが笑われようが、ただひたすら、しつこいくらいに行動し続けた人しか使ってはいけないうような気もします。というのも「なんとかしよう」とあがく人が私の身近にもいたから。肝心なのは「なんとかなる」と口を開けて待っけていても、絶対になんともならないう現実を知ること。そして、なんとかしたいと思っけて、一步を踏み出す事だと思っけます。

佑起子



新潮文庫

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞